

⑤キリンが走る時

2012年8月執筆

キリンが走ると観客から歓声が上がります。多くの方がキリンを見る時、たいてい歩いているか立ち止まっています。キリンが座っている時も「うわ！キリンが座ってる！」とか「キリンが座ってんの初めて見た！」という言葉をよく耳にします。キリンが走っているのを見るチャンスは座っているのを見るよりも少ないですし、何よりも観客の歓声は「珍しさ」でなく「迫力」なのです。大きな体で狭いグラウンドを走るとかなりの迫力です。そして、あまり美しいとは言えないドタバタな走りっぷりに笑う人たちも……。

キリンがよく走る時間帯というものがあります。それは、何故かはよくわかりませんが一番多いのは“雨上がりの朝、グラウンドに出た直後”です。動物園の開園時間は9時です。残念ながらキリンたちはそれより10分か15分くらい前にグラウンドに出ますので、もう走り終えてしまってから開園というパターンは少なくありません。（ただ、まだ息が上がっていて鼻の穴が全開！というところはみられます^^;）

次に多いのは夕方です。その次が朝です。これも何故かはわかりません。また、日中は何かに驚いたり興奮したり、相手がしつこくつきまとしてイライラしたときなどに走ります。

走っている時のしっぽにも注目して見てください。特に早く走る時はしっぽをピタリと体に付けて邪魔にならないようにしています。しかも、カーブの度にしっぽで舵をとるように方向を変えるのです。

中でもコドモはよく走ります。これはキリンに限らずですよ。ヒトもちろん、ほかの動物もコドモはパワーが有り余っています！？当園のコドモキリンで何度か見られたのは、思い切り走って止まることが出来ずにフェンスに衝突する姿です。フェンスならまだしも、お父さんのキヨミズに衝突したコドモもいました。走る加減がまだわかっていないのですね。

もうひとつ、コドモが走る時にちょっとしたおもしろい行動が見られます。それは、親（特に母親）の胸の前を通ることです。当園のキリンのグラウンドは狭い*ので直線的に長くは走れません。そこで、ぐるぐるとグラウンド内を回りながら走るのですが、その時に何らかの形で親のそばを通って行きます。例えば、ミライがフェンスに顔を向けて立っているとしましょう。その時走っているコドモはミライの胸の前とフェンスの間、すなわち親の首の下をくぐって走りぬけて行きます。狭いところをわざわざ。また、キヨミズがグラウンドでポツンと立っている時にコドモがキヨミズを折り返し地点とし

て回っていくこともあります。その時のミライやキヨミズはコドモが走り終わるまで場所を変えずにじっとしています。

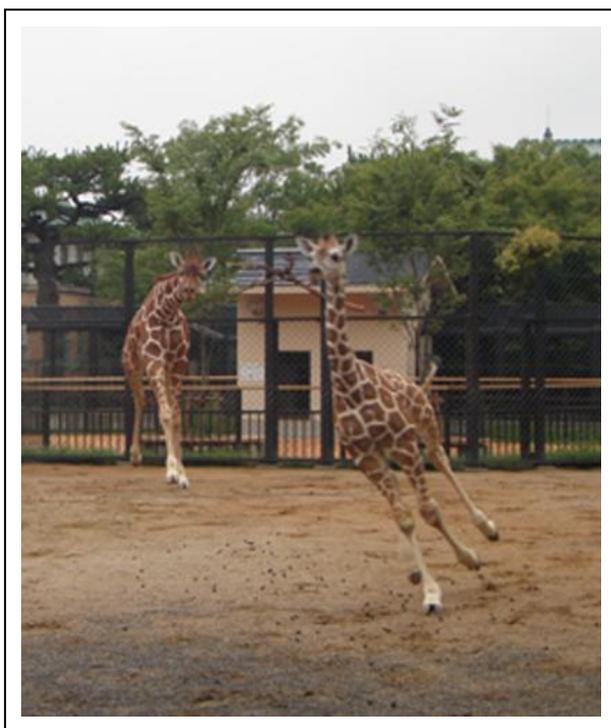
（そういえば、ミライがまだ子供を産んだことがない時にキヨミズを折り返しながら走っていたことがあったなあ・・・。）

そんな光景を見るたびに私はなんだかほほえましくなります。もし、キリンのコドモが走っていたら、そんな行動にも注目してみてください。

「つられて走る」時もあります。その多くはコドモが走り続けているとミライが走るといった状況です。私はキヨミズとは10年のお付き合いになりますが、キヨミズが走っているのを見た記憶がありません。元々おとなしい性格で、どちらかと言えば体はそんなに強くないからか、彼はたとえ他の個体が走っていてもつられて走ることはありません。

キリンが走る姿はたとえコドモのキリンでもその迫力に目を奪われます。風を切って走っているコドモはとっても楽しそうです。その反面、興奮して走っているオトナはドタバタでお世辞にも華麗とは言えずどちらかと言えば滑稽です。稀にしか見るチャンスのないキリンの走る姿、もし見る事が出来たらぜひ堪能してください！

※執筆当時のグラウンドは現在のグラウンドの約4分の1ほどの広さしかありませんでした。



整備され、広くなったグラウンドで思い切り走る

姉シウン（左）と

弟ウリュウ（右）

（2013年夏）